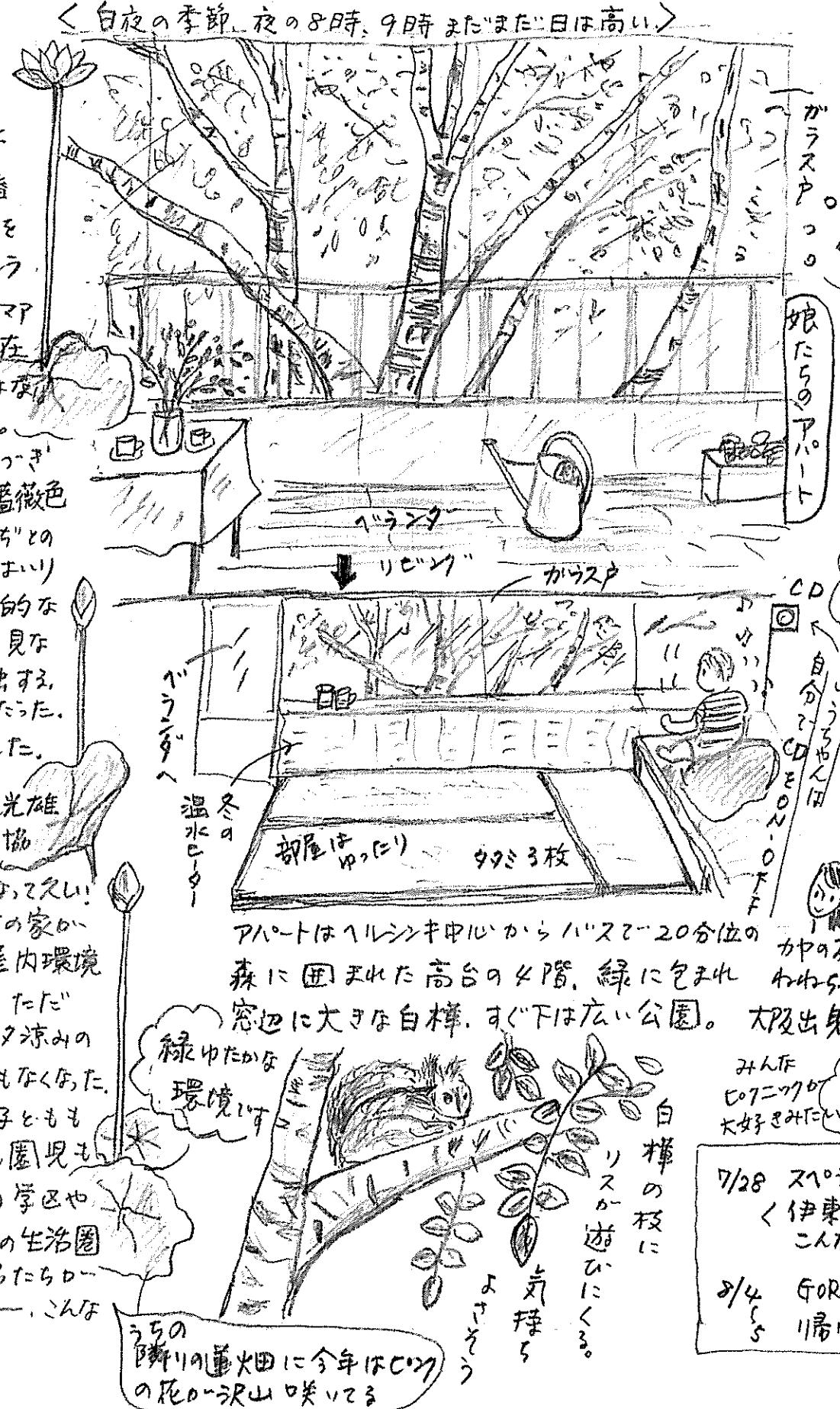


讀書一十八

わたしのマトカ 片桐はいり 幻冬社
片桐はいり? マトカ? BOOK OFF の一番
高い棚にあるのか目に止まり、踏み台を
持つて手に取った。一行目「フィンラ
ント」に出張することになった」とある。マ
タの「かもめ食堂」のロケで 1か月滞在
したフィンランドについで書かれた本ではな
いか。マトカはフィンランド語で「旅」。
面白くて面白くてうんうん、とうとうとうとう
ながら森と湖の美しい国でお会った「薔薇色
の頬をしたシャイで「けど温かい人たち」との
交遊を描いたエッセイを一晩で読了。はいり
こんで、何んて向こう見えて大胆で魅力的な
女性でしょうね。ひとりで地図や路線図を見な
がらどこへ出かけ、いろんな人と接触する。
私も1月ほー1か月近く居たけど頼り切った。
カヤも読みたいといふので持ってきて行きました。

- 窓を開けなくなく、日本人
住まいの変化六十年 渡辺光一
農文協

「一年中窓を開かない家が一目につくようになってしまった。なぜ?」と気になっていた。昼間留守の家が多い、テレビ・インターネット・エアコンなど「屋内環境」が充実して、窓を開ける必要もなく、たまに座ってリモコンを押すだけでもいい。夕涼みの縁台や気軽に訪ねられる隣側ではなく、全く小売店からつぶれ大型スーパーに。子どもも学生も塾やスポーツ団体、老人も園児もバスで送迎、こうして住宅まわりの学区や地域商店街の成り立つ「狭域の生活圏」が消滅していった。家のまわりで主婦たちがおしゃべりし子どもたちが遊んでいる——、こんな風景も消えた今の暮らし……。



けやき通信 2012.7・8月号 No.331

—錦織佳代子—

おはらしい 夏休み♪。：

涼いフィンランドで、6月末から3週間余り
と2も楽しい日々を過ごしました。

日本の梅雨や猛暑のことなどすっかり
忘れて一。フィンランドの夏のくらしを少しづつ
紹介します

光太郎
1歳4ヶ月

とつじょすき
紹介します
ヘルシンキは
花いっせい
迎接
笑顔
最高の
ニコニコ

6/30 さわやかな天気、長袖T
みんなで「中心街のマーケット広場」
ハカニミー。

沢山の屋台が出て、新鮮野菜、~11-類、牛作り
102-、洋4、工芸品、衣類、2-C、軽食、
アティーフ食器など、集まつた人々様子

7/28 スペシャルトークイベント「音楽と建築」を聴きにいく。
＜伊東豊雄・中沢新一・高木正勝＞
こんなビックな3人の話を今治で聴けるなんぞ！

8/4 GORさんと山友たちの例会、内子で一泊
帰りに砥部旧庄屋坪内家のアートイベントに